

◎約十年前、向陽中に赴任した時、ちょうどK S C Cの陶芸部が立ち上がった時であった。その2年前から同じ区の宮前中で、自己流ながら陶芸を始めて面白くなりかけていた時だった。

早速、向陽中でも陶芸部を作り、部活動を始めたそんな時、K S C Cからお声がかかり、私もお手伝いすることになった。最初は指導の先生がいらしたが、翌年から私がお手伝いすることになって、現在に至っている。

生徒たちの陶芸部は少ない人数であったが、集まってきた。特に指導する訳でもなく、週一回、おしゃべりしながら自分たちの好きなものを作っていた。どういう訳か陶芸部に集まってくる生徒は制作の希望も少しはあったが、どちらかというと、心の癒しを求めてくる生徒が多かったように思いました。土をいじっていると、無心になれる事が、心の癒しになるのかな?と思ったりしていた。

生徒の作品は、われわれのものとは、まるで違ったユニークなもので、出来上がってみるとユーモラスな作品が多かった。地域の人たちとのK S C Cの陶芸は、年間5期に分けて、5週単位で土曜日の午後行っている。気心の知れた仲間、お喋りをしながら、自分の作りたい作品を作る、私はそのお手伝いをするといった、制約のないクラブである。

時にはテーマを決めて作ることもあり、一昨年は皆でシーサーを作った。これが、傑作で、それぞれの個性ある作品が出来上がった。また年度の終わりに自作の茶碗でお茶を点てて、和菓子と共にお茶会を楽しんでいる。本当に楽しい陶芸クラブである。

柏木浩志



◎私が鹿野先生のお手伝いを始めた10数年前は、旧クラブハウスで週1日1クラスで活動していました。

今は、月曜日（中学生のみ）水曜日（小学生まで）、土曜日（全員）、の週3日、クラスを4つに分けて、レッスンをしています。発表する機会は、10月の杉並舞踊連盟の文化祭への参加と3月に向陽中学の体育館を使用して頂いて行うパフォーマンスパーティーです。

震災直後の2011年は中止しましたが2014年には9回目となり、バレエとフラの子供達も出演し、総勢180名ほどが参加しました。

生徒だった子が、高校生や大学生になり本番のお手伝いや講師をしてくれ、頼もしくなった姿に驚くことも多く、成長した姿を見ることが出来て、とても喜ばしいです。挨拶をしつかり、元氣よく毎日のレッスンに励んでいます。川又 まりえ



ママと一緒にストレッチ

◎昨年の夏、鹿野先生のストレッチとジャズダンスの見学をさせていただき、とても感心したことがあります。

私がK S C Cに入会したころはまだ、少女のような方たちが、結婚してお子さんを持ち、ずっと続けている事、お互いに子連れで、部屋の隅に遊ばせながら、また、自分のそばに寝かせてゆすりながら、先生のレッスンを受けているのです。

「継続は力なり」 素晴らしき事と感心しました。これは、K S C Cだからこ

そ他ではできないことです。

鹿野先生の寛大な心と皆さんの熱意、そして身近な地域という利点が長く続いている理由だと思えました。

広報 小針京子

編集後記

スペースの関係でいつも編集後記を割愛してきましたが、今回100号記念としてスペースをとり、広報担当の方に一言、書いてもらいました。（瀧水）

最後は、会長が何とかしてくれるだろうと、片隅に思いつつ、あまり細かいことは気にせずに、執筆者の気持ちやニュアンスを活かそうと努めています。

パソコン教室で教わった事が誌面作りに生かせるので、カット選びなど、楽しみながらやっています。（小針）

前会長の上野さんにサイエンスクラブの『樹海探検』に誘われ、その報告記事を書かされたのがきっかけで、お手伝いをしてきました。が、そろそろバトンをお渡ししたいと思っています。文章を書くことや、編集や校正に興味をお持ちの方のご参加を願っています。（晴気）

会報のあゆみページを担当し第1号から99号まで全てに目を通しました。今日までクラブを支え環境を作ってきた方々への感謝を改めて感じ、先輩方に恥じぬよう少しもお役に立てる存在になりたいと思った編集作業でした。（斉藤）